

重点プロジェクト (5) ふるさと農村元気プロジェクト

【ねらい】

◇中山間地域の農村集落において、農村住民自らが主体性を持って取り組む農業生産活動や都市住民との交流活動への取組、地域資源を活用した新たなビジネスへの取組などを支援し、元気溢れるモデル的な農村集落を創ることにより、その波及効果により他地域の農村コミュニティの維持・強化を図ります。

目標指標	H22 基準年	H27 実績	H29 目標年
重点地区の設置	0地区	10地区	20地区

<施策の取組状況>

① 市町村等と連携した重点地区の設定と行動計画の作成支援

- 地方事務所、農業改良普及センターが市町村と連携して、南木曾町読書地区や小川村美会（みあい）地区など中山間地域の集落の中から、都市住民との交流等による農村コミュニティの活性化に取り組む意欲のある集落を重点地区として選定しました。
- 重点集落における活性化に向けた行動計画については、都市住民等の集落住民同士の話し合いを中心に市町村と地方事務所、農業改良普及センターも加わり、さらなる地域資源の発掘と活用方法の見直しを行い、6次産業化と都市農村交流の具体的な取組の見直しや改善を行いました。



【集落住民による活性化に向けた話し合い】

② 地域の知恵と工夫を活かした取組への支援

○ 農業生産活動の継続

- 市町村と連携して、既存制度を活用し、集落の話し合いに基づく農地法面の草刈りや水路・農道の維持・管理などの共同活動を支援しました。
- 遊休農地を活用した取組を支援するため、新たに取組む作物の栽培技術や、生産した農産物の加工・販売方法等について指導・助言を行いました。
- 高齢化・過疎化による遊休農地の発生を防ぐため、集落住民の検討会に参加し、営農活動の継続に向けた取組を支援しました。
- 地域農産物のブランド化に向け、市町村と連携し、地域資源の掘り起こしや加工について集落と一体となって検討を進めました。
- 棚田の再生と棚田を活用したコミュニティ活動を構築するため、市町村とともに指導・助言を行いました。



【観光農園(ブルーベリー)整備による遊休農地発生防止活動】

○ 農村コミュニティビジネスの創出

- 農村コミュニティの維持を推進するため、J A長野県グループと「農村地域の暮らし支援に関する協定」を締結しました。
- 都市住民との交流促進のための農園整備や肥培管理について、農業改良普及センターが技術指導を行うとともに、新たな販売方法について集落住民と一体となって検討を行いました。
- 小学生や保育園児を対象にした、農作業体験を通じた食育活動の取組を支援しました。
- 学校給食への食材提供や農作物の収穫体験等の新たなコミュニティ活動について、地域住民と一緒に検討をしました。
- 遊休農地の再生と地域特産品の生産拡大による農業生産活動の活性化に向けた取組を、市町村、地方事務所が一体となって支援しました。



○ 都市住民との交流活動の促進

- 都市住民を対象にした交流事業を実施するため、集落組織の打ち合わせ会議に参加し、指導・助言を行いました。
- 農作業の体験、おやきづくりなどの郷土食の加工体験等の取組を支援するとともに、都市住民との交流を促進しました。
- 棚田を活用した新たなオーナー制度の構築に向け、集落住民の話し合いに市町村、地方事務所の職員が参加し、オーナー制度の構築を支援しました。



【都会に住む女性の農作業・郷土食調理体験】

<今後の展開方向>

- 地域資源の掘り起こしと魅力ある新たな商品開発に向けた取組を支援します。
- 農村コミュニティ活動の継続的な実施に向けた集落内の合意形成を進めます。
- 都市農村交流事業のリピーターを確保するとともに、農家民宿とも連携した新たな受入体制の整備を支援します。
- 保育園児、小学生を対象とした食農体験の取組を支援します。
- 棚田を活用したオーナー制度の取組を支援します。

TOPIX

都市農村交流事業を通じた遊休農地の活用

南木曾町読書の柳野・戸場地区では、高齢化等による遊休農地の発生防止と遊休化された農地の活用を図るため、ほぼ全ての地区住民が参画した「花桃会」を組織して、そばやじゃがいもなどの栽培を通じた食育活動や、地域特産物である「ほうば巻き」の伝承活動、中京圏の都市住民とのそば打ち体験などの交流事業（5回、140名参加）を展開しました。

次年度は、関係性のできた都市住民の二地域居住の推進など、交流を更に深める取組を進めることとしています。

